

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 3 部門第 2 区分
【発行日】平成 17 年 10 月 6 日 (2005.10.6)

【公開番号】特開 2005-47929 (P2005-47929A)
【公開日】平成 17 年 2 月 24 日 (2005.2.24)
【年通号数】公開・登録公報 2005-008
【出願番号】特願 2004-273531 (P2004-273531)
【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 31/718
A 6 1 P 41/00
C 0 8 B 30/18

【F I】

A 6 1 K 31/718
A 6 1 P 41/00
C 0 8 B 30/18

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)
【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

体腔内まみまたは体腔関連の癒着の発生を阻止するかまたは低減するための薬剤の製造のための、多糖類デキストリンを含む水性製剤を含む組成物の使用であって、該デキストリンは 12 より大きい重合度 (DP) を有する重合体を 15% より多く含む組成物の使用。

【請求項 2】

前記水性製剤が溶液である請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

前記組成物が、外科手術が行われた後に適切な体腔に適用される請求項 1 または 2 に記載の使用。

【請求項 4】

前記組成物が、少なくとも 2 ～ 3 日間にわたり体腔内に残留することが可能である請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 5】

前記組成物が、線維素浸出が最大である期間にわたり、体腔内に残留することが可能である請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 6】

前記組成物が、非接着性の表面の修復 (体腔上皮再生) を可能にするために、最大で 7 ～ 8 日までの期間にわたり、体腔内に残留する請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 7】

前記組成物が、500ml ～ 2000ml の範囲内の量で腹膜腔に適用される請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 8】

前記組成物が、1000ml ～ 1500ml の範囲内の量で腹膜腔に適用される請求項 7 に記載の使用。

【請求項 9】

前記デキストリンが、組成物の 2.5 ~ 18 重量パーセントの濃度範囲にわたって、異なる濃度で、適切な体腔に適用される請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 10】

前記デキストリンが、組成物の 3 ~ 5 重量パーセントの濃度範囲にわたって、異なる濃度で、適切な体腔に適用される請求項 9 に記載の使用。

【請求項 11】

前記デキストリンが、組成物の約 4 重量パーセントの量で、適切な体腔に適用される請求項 9 または 10 に記載の使用。

【請求項 12】

前記デキストリンの濃度範囲を、一定の期間にわたり、選択的に変化させる請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 13】

前記デキストリンの - 1, 6 結合のパーセンテージが、10%未満である請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 14】

前記デキストリンの - 1, 6 結合のパーセンテージが、5%未満である請求項 13 に記載の使用。

【請求項 15】

前記デキストリンの数平均分子量 (Mn) が、1000 ~ 30000 の範囲内にある請求項 1 ~ 14 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 16】

前記デキストリンの Mn が、3000 ~ 8000 の範囲内にある請求項 15 に記載の使用。

【請求項 17】

前記デキストリンの重量平均分子量 (Mw) が、3000 ~ 50000 である請求項 1 ~ 16 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 18】

前記デキストリンの Mw が、5000 ~ 50000 である請求項 17 に記載の使用。

【請求項 19】

前記デキストリンが、12 より大きい重合度 (DP) を有する重合体を 50% より多く含む請求項 1 ~ 18 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 20】

前記デキストリンが非置換デキストリンである請求項 1 ~ 19 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 21】

前記デキストリンが、負電荷を有する基、硫酸基、中性の基、正電荷を有する基、第四級アンモニウム基から成る群から選択される 1 以上の異なる基により置換されている請求項 1 ~ 19 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 22】

前記デキストリンが、1つの糖 (グルコース) ユニット当たり少なくとも 1つの硫酸基を含む硫酸化デキストリンである請求項 1 に記載の使用。

【請求項 23】

前記デキストリンが前記組成物の 3 ~ 5 重量%の量で存在する請求項 21 または 22 に記載の使用。

【請求項 24】

前記デキストリンが前記組成物の 3 ~ 5 重量%の量で存在する請求項 23 に記載の使用。

【請求項 25】

前記デキストリンが前記組成物の約 4 重量%の量で存在する請求項 23 または 24 に記載の使用。

【請求項 26】

前記組成物がカルシウム結合剤をさらに含む請求項 1 ~ 25 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 27】

前記カルシウム結合剤が、EDTA またはクエン酸ナトリウムである請求項 26 に記載の使用。

【請求項 28】

前記組成物が潤滑剤をさらに含む請求項 1 ~ 27 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 29】

前記潤滑剤がリン脂質である請求項 28 に記載の使用。

【請求項 30】

前記組成物がヒアルロン酸塩をさらに含む請求項 1 ~ 29 のいずれか 1 に記載の使用。

【請求項 31】

前記組成物が次の化合物、グリコサミノグリカン、抗生物質剤、プロスタサイクリンまたはその類似物、線維素溶解剤またはその類似物、抗炎剤またはその類似物、デキストリン硫酸および / またはメチレンブルーのうちの一つ以上から選択される化合物をさらに含む請求項 1 ~ 30 のいずれか 1 に記載の使用。